

明治維新150周年

次の時代にも発展し続けるまちづくりを

佐世保市長 朝長 則男



明けましておめでとうございます。

輝かしい平成30年の初春を健やかに迎えになられましたことを、心からお慶び申し上げます。

昨年、本市は市制施行115周年を機に、成長戦略をさらに進化させるため「8つのリーディングプロジェクト」を開始させましたが、その後すぐに、野村総合研究所が全国100都市の成長可能性に関するランキングを発表しました。その総合ランキングを見てみると、1位東京23区、2位福岡市、3位京都市など大都市が名を連ねる中、10位には私たちの佐世保市が格付けされており、大変うれしく思いました。本市の多様性を受け入れる風土などが高く評価されたとのことでしたが、このことは市民の皆さまにとりましても故郷に対する自信や愛着につながったのではないかと思います。

さて、本年は明治維新150周年の記念の年です。

この明治の時代、佐世保では旧海軍佐世保鎮守府開庁を契機に、当時の最先端技術を駆使した大規模な建設工事が一斉に行われ、造船所などの産業基盤をはじめ、市街地や水道施設などの都市基盤が急速に整備されました。その多くは百年経った今もまちに溶け込みながら現存しており、平成28年には「日本近代化の躍動を体感できるまち」として「日本遺産」に認定されました。

本市ではこのように明治から続く先人たちの思いや歴史をしっかりと受け継ぎ、次の時代にも発展し続けるまちづくりの礎を確実に築いていくため、本年も成長戦略「8つのリーディングプロジェクト」を中心にさまざまな施策を進めていきたいと思っております。

また、平戸市、松浦市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、佐々町、新上五島町、佐賀県伊

万里市、武雄市、嬉野市、有田町の13市町との県境を超えた新しい広域連携の取り組みとして検討を進めている「西九州さそび広域都市圏」の形成については、圏域の中心都市としての役割を担うことを表明する「連携中枢都市宣言」を本年中に行い、西九州北部地域の一体的な発展を目指します。

「地域の絆づくり」の施策については、本年3月までに市内全27地区に地区自治協議会が設立される見込みであり、市民の皆さまと行政が協力・連携して、明るく住みよい安全・安心な地域づくりに向けた取り組みを進めていきます。

このほか、黒島天主堂などを含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」については、世界遺産への登録が本年夏ごろに見込まれており、多くの皆さまが訪問されますことを期待しています。また、本市への移住に関する施策については、昨年、新みなとターミナルに設置したさそび移住サポートプラザの利用者数も多く、移住者も増加傾向にあるため、全国的な人口減少が懸念される中、本市では減少傾向の鈍化につ

ながるのではないかと思います。さらに、農水産業においては、市町村別漁獲量で全国4位、県内では1位の漁獲量を誇る水産業に大きな期待をしており、ブランド化された西海みかんや長崎和牛などについてもさらなる産地力強化に努めたいと思っております。

一方、基地政策については、陸上自衛隊水陸機動団の新編など、崎辺地区の自衛隊による利活用が具体的に進むことを踏まえ、前畑崎辺道路の本格的な着工に向けた着実な事業展開を図っていくとともに、長年の懸案である石木ダムによる新規水源開発につきましても長崎県と協力し進めていきたいと思っております。

このほかにもさまざまな課題が山積していますが、本市の成長可能性が数年後には現実のものとなるように、本年も全力で市政運営に取り組んでまいりますので、市民の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、本年が市民の皆さまにとって素晴らしい一年になりますよう心から祈念申し上げます。年頭の「あいさつ」といたします。



8つのリーディングプロジェクト

- ①クルーズ船入港体制整備
- ②俵ヶ浦半島開発
- ③九十九島認知度向上
- ④名切地区再整備
- ⑤英語が話せるまち 佐世保
- ⑥基地との共存共生
- ⑦統合型リゾート (IR) 誘致
- ⑧企業立地・新工業団地整備

※詳しくは広報さそび 平成29年4月号をご覧ください。

